

# 令和3年度JA共済の運用益の使途について

令和3年1月

令和3年度計画額

合計額：1,251,192千円（26,658千円（2.0%）減）

<主な変更点>

(単位:千円)

		内容	金額	前年度増減
自動車事故 防止対策	新規	<b>シルバー世代向け交通安全啓発活動の実施</b> ○高齢者の運転改善等に寄与する資材を作成・配布し、農村地域における交通安全啓発を実施する。	20,000	新規
	拡充	<b>シルバー世代向け自動車安全運転診断の実施</b> ○高齢ドライバーの交通安全運転診断を目的に実施している。 ○危険予測能力に関する診断と、認知・判断力等の診断を統合し、総合的な運転能力診断が行えるようシミュレーターを強化する。	115,000	9,709
	見直し	<b>幼児向け交通安全教室の実施</b> ○幼稚園・保育園児やその保護者を対象とした、体験しながら交通规则を学べる交通安全教室を実施している。 ○コロナ禍を踏まえ、1回あたりの参加者数を大人数から小人数へ見直し、かつ屋外対応可能な内容へ変更する。	155,000	▲5,000
	減額	<b>シルバー世代向け交通安全教室の実施</b>	96,000	▲44,000

<予算の推移>

(単位:百万円)

令和元年度	令和2年度 (a)	令和3年度【案】 (b)	増減額 (b-a)	増減率(%)
1,300	1,277	1,251	▲26	▲2.0

## 自賠責共済運用益拠出事業（詳細）

### 1. 自動車事故防止対策

（単位：千円）

事業の内容(令和3年度(案))	【 】内は事業主体	令和元年度 計画額	令和元年度 実績額	令和2年度 計画額 (a)	令和3年度 計画額(案) (b)	計画額の 増減額 (b-a)	増減率 (%)
(1) 全国一斉交通安全運動の協賛 全国のJA等で交通安全運動期間中に同運動ポスターを掲示し、交通事故防止を図る。【内閣府他】		1,000	993	1,000	1,000	0	0.0%
(2) シートベルト・チャイルドシート着用推進運動の協賛 シートベルト・チャイルドシート着用促進の広報活動等により交通事故防止を図る。 【シートベルト・チャイルドシート着用推進協議会】		1,000	1,000	1,000	1,000	0	0.0%
(3) 自動車点検整備推進運動の協賛 自動車点検整備推進運動に協賛し、交通事故の防止を図る。【自動車点検整備推進協議会】		500	500	500	500	0	0.0%
(4) 交通安全スローガン・ポスター募集事業への協賛 交通安全スローガンおよび当該スローガンを使用したポスターの募集を行い、優秀作品を活用した啓発活動を実施し交通事故の防止を図る。【毎日新聞社・(一財)全日本交通安全協会】		2,700	2,700	2,750	2,750	0	0.0%
(5) 全日本交通安全協会の支援 交通安全に関する広報活動、交通安全表彰、交通安全教育の推進等を実施する(一財)全日本交通安全協会を支援し、交通事故の防止を図る。【(一財)全日本交通安全協会】		2,000	2,000	2,000	2,000	0	0.0%
(6) 反射材を活用した交通安全啓発活動の実施 夜間の交通事故防止に効果的な反射材の普及促進を図るため、反射材フェアに協賛する。【(一財)全日本交通安全協会（後援予定：警察庁）】		6,500	6,500	6,500	6,500	0	0.0%
(7) 幼児向け交通安全教室の実施 全国各地で、幼稚園・保育園児とその保護者を対象とした交通安全教室を開催し、交通事故の未然防止を図る。【JA・JA共済連（後援予定：内閣府、警察庁、国土交通省他）】		160,000	152,075	160,000	155,000	▲ 5,000	-3.1%
(8) 生徒向け自転車交通安全教室の実施 全国各地で、中高生を対象とした交通事故の実演（スタントマン）により自転車事故の危険性を学ぶ交通安全教室を開催し、交通事故の未然防止を図る。【JA共済連・各都道府県警察本部】		212,000	209,269	212,005	212,005	0	0.0%
(9) シルバー世代向け交通安全教室の実施 高齢者を対象とした交通安全講話や敏捷性測定等の交通安全教室を開催し、交通事故の未然防止を図る。 【JA・JA共済連】		140,000	123,905	140,000	96,000	▲ 44,000	-31.4%
(10) シルバー世代向け自動車安全運転診断の実施 高齢者を対象とした交通事故未然防止に向けた自動車安全運転診断等により、交通安全意識の向上促進を図る。【JA・JA共済連】		104,000	100,189	105,291	115,000	9,709	9.2%
(11) シルバー世代向け交通安全啓発活動の実施 高齢者を対象とした交通安全啓発のための映像資料や冊子等を作成し、高齢者に対する交通安全啓発を行う。【JA・JA共済連】		—	—	—	20,000	—	—
小 計		629,700	599,133	631,046	611,755	▲ 19,291	-3.0%

## 2. 救急医療体制の整備

(単位：千円)

事業の内容(令和3年度(案))	【 】内は事業主体	令和元年度 計画額	令和元年度 実績額	令和2年度 計画額 (a)	令和3年度 計画額(案) (b)	計画額の 増減額 (b-a)	増減率 (%)
(1) 救急医療機器等購入費補助		410,000	402,738	390,000	390,000	0	0.0%
地域の救急医療を担う厚生連病院等に対して救急医療機器等の購入費を補助し、救急医療体制の整備と被害者救済を図る。全国の厚生連病院105病院のうち、96病院が救急告示を、27病院がへき地中核・医療拠点病院指定を受けている。(令和2年3月31日現在) 【厚生連病院他】							
(2) 救急ヘリ普及推進活動の支援		5,500	5,500	5,500	5,500	0	0.0%
救急医療用ヘリに関する啓発・広報活動を支援し、救急医療体制の整備と被害者救済を図る。 【認定NPO法人救急ヘリ病院ネットワーク】							
小	計	415,500	408,238	395,500	395,500	0	0.0%

### 3. 自動車事故被害者対策

(単位：千円)

事業の内容(令和3年度(案))	【 】内は事業主体	令和元年度 計画額	令和元年度 実績額	令和2年度 計画額 (a)	令和3年度 計画額(案) (b)	計画額の 増減額 (b-a)	増減率 (%)
(1) 自賠責制度周知活動の実施 自賠責共済・保険の未加入車両の解消を図る自賠責制度周知活動を通じて、被害者救済を図る。 【国土交通省他】		3,000	2,696	3,000	3,000	0	0.0%
(2) 交通事故無料法律相談事業の支援 自動車事故損害賠償に関する無料法律相談事業を支援し、被害者救済を図る。 【(公財)交通事故紛争処理センター】		69,090	69,090	69,975	60,570	▲ 9,405	-13.4%
(3) 交通事故無料法律相談機関の支援 交通事故に関する無料法律相談機関を支援し、被害者救済を図る。 【(公財)日弁連交通事故相談センター】		20,000	20,000	20,000	25,000	5,000	25.0%
(4) 介助犬の普及支援 身体障害者の日常生活を補助する介助犬の普及活動を支援し、被害者救済を図る。 【(社福)日本介助犬協会・NPO法人日本補助犬情報センター・JA・JA共済連】		61,800	50,482	61,800	55,800	▲ 6,000	-9.7%
(5) 交通事故医療研究の支援 交通事故医療に関する研究を公募のうえ選定した医療研究25件に助成し、医療の進歩に寄与することを通じて被害者救済を図る。【公募】		25,000	24,830	25,000	25,000	0	0.0%
(6) (公財)交通遺児等育成基金の支援 交通遺児の生活基盤安定を目的とする(公財)交通遺児等育成基金を支援し、被害者救済を図る。 【(公財)交通遺児等育成基金】		2,265	1,756	2,359	2,397	38	1.6%
(7) (公財)交通遺児育英会の支援 交通遺児の修学を援助する(公財)交通遺児育英会を支援し、被害者救済を図る。 【(公財)交通遺児育英会】		10,000	10,000	10,000	10,000	0	0.0%
(8) 重度脳損傷後の意識障がい者と家族に関する研究 <3年計画の3年目> 家族の介護負担要員に対する方策の提案とそのニーズに関する調査を実施する。 【筑波大学】		770	188	970	970	0	0.0%
小 計		191,925	179,043	193,104	182,737	▲ 10,367	-5.3%

4. 後遺障害認定対策

(単位：千円)

事業の内容(令和3年度(案))	【 】内は事業主体	令和元年度 計画額	令和元年度 実績額	令和2年度 計画額 (a)	令和3年度 計画額(案) (b)	計画額の 増減額 (b-a)	増減率 (%)
(1) 適性な後遺障害認定に資する医療研究に対する支援の実施 交通事故医療に関する臨床的研究を対象に、研究課題を特定して公募のうえ選定した医療研究に助成し、交通事故被害者に対する適正な後遺障害認定に資する。【公募】		9,000	9,000	3,000	6,000	3,000	100.0%
小	計	9,000	9,000	3,000	6,000	3,000	100.0%

5. 医療費支払適正化対策

(単位：千円)

事業の内容(令和3年度(案))	【 】内は事業主体	令和元年度 計画額	令和元年度 実績額	令和2年度 計画額 (a)	令和3年度 計画額(案) (b)	計画額の 増減額 (b-a)	増減率 (%)
(1) 医療分野研修等の実施 医療分野研修を実施し、医療費支払の適正化を図る。 【(一社)JA共済総合研究所医療研究研修部】		54,200	54,173	55,200	55,200	0	0.0%
小	計	54,200	54,173	55,200	55,200	0	0.0%

※ 1. 自動車事故防止対策、2. 救急医療体制の整備、3. 自動車事故被害者対策、4. 後遺障害認定対策 および 5. 医療費支払適正化対策の合計金額

(単位：千円)

	令和元年度 計画額	令和元年度 実績額	令和2年度 計画額 (a)	令和3年度 計画額(案) (b)	計画額の 増減額 (b-a)	増減率 (%)	
合	計	1,300,325	1,249,588	1,277,850	1,251,192	▲ 26,658	-2.0%

## 自賠責共済運用益拠出額の推移

(単位:千円)

年度 拠出項目	平成29年度			平成30年度			令和元年度			令和2年度			令和3年度(案)		
	拠出額	増減額	増減率(%)	拠出額	増減額	増減率(%)	拠出額	増減額	増減率(%)	拠出額	増減額	増減率(%)	拠出額	増減額	増減率(%)
1. 自動車事故防止対策	675,700	0	0.0	629,700	▲ 46,000	▲ 6.8	629,700	0	0.0	631,046	1,346	0.2	611,755	▲ 19,291	▲ 3.0
2. 救急医療体制の整備	445,500	▲ 10,000	▲ 2.1	435,500	▲ 10,000	▲ 2.2	415,500	▲ 20,000	▲ 4.5	395,500	▲ 20,000	▲ 4.8	395,500	0	0.0
3. 自動車事故被害者対策	194,931	▲ 7,168	▲ 3.5	199,045	4,114	2.1	191,925	▲ 7,120	▲ 3.5	193,104	1,179	0.6	182,737	▲ 10,367	▲ 5.3
4. 後遺障害認定対策	6,000	6,000	—	9,000	3,000	50.0	9,000	0	0.0	3,000	▲ 6,000	▲ 66.6	6,000	3,000	100.0
5. 医療費支払適正化対策	54,200	0	0.0	54,200	0	0.0	54,200	0	0.0	55,200	1,000	1.8	55,200	0	0.0
合計	1,376,331	▲ 11,168	▲ 0.8	1,327,445	▲ 48,886	▲ 3.5	1,300,325	▲ 27,120	▲ 2.0	1,277,850	▲ 22,475	▲ 1.7	1,251,192	▲ 26,658	▲ 2.0

(注) 拠出額は年度初期の予定額であり、実績額ではない。



### 令和元年度自賠責共済運用益拠出事業の内容

#### 1. 自動車事故防止対策

事業の内容 【実績額】	実施概要	備 考
(1) 全国一斉交通安全運動の協賛  【993千円】	<p>★ 内閣府他の全国一斉交通安全運動に協賛し、交通事故の防止を図る。</p> <p>○ 内閣府他の全国一斉交通安全運動に協賛。秋および春の全国一斉交通安全運動ポスターを全国のJ Aおよび関連団体に配布、全国各地で運動期間中に掲示。(令和元年秋：16,760枚、令和2年春：14,500枚)</p>	○ 警察関係者へのヒアリングを実施
(2) シートベルト・チャイルドシート着用推進運動の協賛  【1,000千円】	<p>★ シートベルト・チャイルドシート着用推進協議会の着用推進運動に協賛し、交通事故の防止・軽減を図る。</p> <p>○ シートベルト・チャイルドシート着用推進協議会(内閣府、文部科学省、警察庁、国土交通省および自動車関連団体等で構成、(一財)日本交通安全教育普及協会が事務局)のシートベルト・チャイルドシート着用推進運動に協賛。</p> <p>○ シートベルト・チャイルドシート着用必要性等の啓発広報活動。</p> <p>○ 適切な選定・装着促進のためのチャイルドシート指導員養成研修会の開催支援。</p>	○ 活動状況についてヒアリングを実施
(3) 自動車点検整備推進運動の協賛  【500千円】	<p>★ 自動車点検整備推進協議会の自動車点検整備推進運動に協賛し、交通事故の防止を図る。</p> <p>○ 自動車点検整備推進協議会(国土交通省および自動車関連団体で構成)の自動車点検整備推進運動に協賛。</p> <p>○ YouTube動画掲載、幹線道路沿いの飲食店内にてポスター掲載。</p>	○ 活動状況についてヒアリングを実施
(4) 交通安全スローガン・ポスター募集事業への協賛  【2,700千円】	<p>★ 毎日新聞社・(一財)全日本交通安全協会の交通安全スローガン・ポスター募集事業に協賛し、交通事故の防止を図る。</p> <p>○ 毎日新聞社・(一財)全日本交通安全協会の交通安全スローガン・ポスター募集事業に協賛。</p> <p>○ スローガン応募数：47,535点</p> <p>○ ポスター応募数：3,222点</p>	<p>○ スローガン、ポスターの大賞作品を選定する審査会に出席</p> <p>○ 活動状況についてヒアリングを実施</p>
(5) (一財)全日本交通安全協会の支援  【2,000千円】	<p>★ 交通安全事業を行う(一財)全日本交通安全協会を支援し、交通事故の防止を図る。</p> <p>○ 第60回交通安全国民運動中央大会を開催し、全国の交通安全功労者や無事故運転者等を表彰、交通事故防止活動の徹底などの諸対策を国民運動として強力に推進する大会宣言を採択。</p> <p>○ 春の全国交通安全運動、秋の全国交通安全運動を関係省庁・団体と共催。</p> <p>○ 交通安全教育の推進。</p>	○ 活動状況についてヒアリングを実施
(6) 反射材を活用した交通安全啓発活動の実施  【6,500千円】	<p>★ 反射材フェアに協賛し、夜間の交通事故防止に効果的な反射材の普及促進を図る。</p> <p>○ (一財)全日本交通安全協会 反射材活用推進委員会が主催し、警察庁が後援する「反射材フェア」に協賛し、夜間の交通事故防止に効果的な反射材資材の普及促進を行う。</p>	○ 活動状況についてヒアリングを実施
(7) 幼児向け交通安全教室の実施  【152,075千円】	<p>★ 幼児対象の交通安全教室を実施し、交通事故の防止を図る。</p> <p>○ 全国各地で、幼児がミュージカル形式で交通安全知識を学ぶ交通安全教室を開催。(26回開催、合計約12,807名(保護者を含む)参加)</p>	○ 警察関係者へのヒアリングを実施
(8) 生徒向け自転車交通安全教室の実施  【209,269千円】	<p>★ 交通事故未然防止に必要な知識や技能の習得の促進を図る。</p> <p>○ 危険な自転車走行に伴う交通事故の実演(スタントマン)により、生徒に危険性を疑似体験させるスケアード・ストリート教育技法による自転車交通安全教室を警察等と連携し開催。(169回開催、72,911名参加)</p>	<p>○ 現地視察を実施</p> <p>○ 警察関係者へのヒアリングを実施</p>

(9) シルバー世代向け交通安全教室の実施 【123,905千円】	<p>★ 高齢者対象の交通安全教室を実施し、交通事故の防止を図る。</p> <p>○ 全国各地で、高齢者向けプログラム（交通安全講話、身体機能の衰えに関するDVD鑑賞や敏捷性測定等）による高齢者対象の交通安全教室を開催。（125回開催、13,461名参加）</p>	○ 警察関係者へのヒアリングを実施
(10) シルバー世代向け自動車安全運転診断の実施 【100,189千円】	<p>★ 高齢者を対象に自動車安全運転診断等を実施し、交通安全意識の向上促進を図る。</p> <p>○ 全国各地でドライビングシミュレーター搭載車両「きずな号」を全国に巡回・派遣させ、高齢ドライバーを対象に安全運転診断を開催。（101回開催、3,024名参加）</p>	○ 警察関係者へのヒアリングを実施

## 2. 救急医療体制の整備

事業の内容 【実績額】	実施概要	備 考
(1) 救急医療機器等購入費補助 【402,738千円】	<p>★ 地域の救急医療を担う病院に対して救急医療機器等購入費を補助し、救急医療体制の整備と被害者救済を図る。</p> <p>○ 48病院に対する救急医療機器購入費補助 旭川厚生、札幌厚生、網走厚生病院、かつの厚生、北秋田市民、能代厚生医療センター、秋田厚生医療センター、由利組合総合、大曲厚生医療センター、平鹿総合、雄勝中央、坂下厚生総合、白河厚生総合、鹿島厚生、県北医療センター高萩協同、総合病院土浦協同、上都賀総合、佐野厚生総合、伊勢原協同、浅間南麓こもろ医療センター、北信総合、長岡中央総合、村上総合、佐渡総合、柏崎総合医療センター、上越総合、厚生連高岡、久美愛厚生、揖斐厚生、遠州、静岡厚生、清水厚生、海南、菰野厚生、みどり診療所、尾道総合、吉田総合、廣島総合、周東総合、長門総合、小郡第一総合、吉野川医療センター、屋島総合、滝宮総合、JA高知、福岡整形外科、大分県厚生連鶴見、鹿児島厚生連</p> <p>主な機器は、超音波診断装置・内視鏡などであり、検査時間の短縮、診断精度の向上等、有効に活用されていることを事務局で確認している。</p> <p>○ 5病院に対するリハビリ機器購入費補助 鹿島厚生病院、伊勢原協同病院、みどり診療所、JA高知病院、福岡整形外科病院</p>	○ 購入機器の写真等を添付した報告書を受領
(2) 救急ヘリ普及推進活動の支援 【5,500千円】	<p>★ 認定NPO法人救急ヘリ病院ネットワークの救急医療用ヘリに関する啓発・広報活動費用を支援し、救急医療体制の整備と被害者救済を図る。</p> <p>○ 救急医療用ヘリの有効性と必要性を広く広報するための広報誌「HEM-Netグラフ」等を発行。</p>	○ 活動状況についてヒアリングを実施

3. 自動車事故被害者対策

事業の内容 【実績額】	実施概要	備 考
(1) 自賠責制度周知活動の実施  【2,696千円】	<p>★ 自賠責共済・自賠責保険の未加入車両の解消を図る自賠責制度周知活動を実施し、被害者救済に役立てる。</p> <p>○ 全国のJA等で秋の全国一斉交通安全運動期間を中心に、国土交通省作成のリーフレット（約71万部）・ポスター（約5万枚）を配布・掲示。</p>	○ 活動状況についてヒアリングを実施
(2) 交通事故無料法律相談事業の支援  【69,090千円】	<p>★ （公財）交通事故紛争処理センターの自動車事故損害賠償に関する無料法律相談事業を支援し、紛争解決を図る。</p> <p>○ JA共済加入車両の相談等は446件(前年度:481件)であり、前年度より取扱件数は減少となった。</p>	○ 活動状況についてヒアリングを実施
(3) 交通事故無料法律相談機関の支援  【20,000千円】	<p>★ 交通事故法律相談を行う（公財）日弁連交通事故相談センターを支援し、紛争解決を図る。</p> <p>○ 令和元年度のJA共済に加入している車両の交通事故に関する示談斡旋は、申込受理件数159件（前年度139件）、斡旋延回数293回（同237回）であり、審査は申込受理件数18件（同14件）、審査回数33回（同22回）であった。いずれも是年度より増加傾向にあり、より多くの人に相談などを提供し、迅速かつ円満な解決に貢献できた。</p>	○ 活動状況についてヒアリングを実施
(4) 介助犬の普及の支援  【50,482千円】	<p>★ 身体障害者の日常生活を補助する介助犬の普及を支援し、被害者救済に役立てる。</p> <p>○ 特定NPO法人日本補助犬情報センター（旧、介助犬アカデミー）の活動状況 身体障害者補助犬育成補助事業など介助犬・補助犬に関する調査研究・講演等、介助犬・補助犬に関する啓発活動</p> <p>○ (社福)日本介助犬協会の活動状況 介助犬の育成・提供、介助犬の認知度向上のための講演会・イベント開催、介助犬利用者・希望者の相談</p> <p>○ 介助犬の認知度向上を図るための、デモンストレーション・ポスター等による広報活動。（後援：厚生労働省）</p>	○ 活動状況についてヒアリングを実施 ○ 介助犬デモンストレーションの現地視察を実施
(5) 交通事故医療研究の支援  【24,830千円】	<p>★ 交通事故医療の研究にかかる研究費の一部助成。</p> <p>○ 外傷性脳損傷慢性期における脳萎縮へのアミロイド・Tau蛋白沈着の影響 （上田 敬太 京都大学医学部附属病院 精神科神経科）</p> <p>○ 外傷患者搬送におけるpermissive hypotensionの適正血圧値に関する非侵襲的評価方法の検討—脳および筋組織酸素飽和度の解析 （光山 裕美 大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター）</p> <p>○ 拡散テンソルADC mapを用いた外傷後腰部脊柱管内病変の評価 （乗本 将輝 千葉大学 整形外科）</p> <p>○ 神経微細構造および機能画像による脊髄損傷患者の評価：新たなイメージングバイオマーカーの創出 （牧 聡 千葉大学医学部附属病院 整形外科）</p> <p>○ 2D-3Dレジストレーションによる骨折手術支援システムの開発 （吉井 雄一 東京医科大学茨城医療センター 整形外科）</p> <p>○ Hybrid Emergency Room (ER) に特化した新しい外傷初期診療指針の有効性に関する多施設後方視的観察研究 （木下 喬弘 大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター）</p> <p>○ 仮想現実の有用性に着眼した軽症頭部外傷（mTBI）の病態生理の解明と新規評価・治療法の開発 （中山 晴雄 東邦大学医療センター 大橋病院 脳神経外科）</p> <p>○ 交通事故により上肢骨折を受傷した患者に対する炭酸ガス経皮吸収療法：上肢機能回復促進効果の検証 （李 相亮 昭和大学 医学部 整形外科学講座）</p> <p>○ 非重症高齢者交通頭部外傷における画像診断と高次脳機能障害、リハビリテーション効果の関連因子に関する研究 （井川 房夫 島根県立中央病院 脳神経外科）</p> <p>○ 交通外傷による重症患者の救急・集中治療管理における系統的超音波検査を用いた治療戦略の確立 （中尾 俊一郎 大阪大学医学部附属病院 高度救命救急センター）</p> <p>○ 外傷性頸部症候群における頸部伸筋群の脂肪変性に着目した頸部痛の病態解析 （高島 弘幸 札幌医科大学附属病院 放射線部）</p>	○ JA共済医療研究助成審査委員会を開催し、助成対象25テーマを選定 ○ 各研究の成果については、報告書の提出を求めるとともに、学会等にも積極的に発表するよう依頼している

	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 重度下肢骨折における初期治療の創外固定器を用いたプレート固定法の確立 (王 耀東 東京医科歯科大学大学院 整形外傷外科治療開発学講座)</li> <li>○ OpenPoseを用いたリハビリ中の歩行動作解析システムの構築 (小山 恭史 東京医科歯科大学大学院 医歯学総合研究科 整形外科学)</li> <li>○ 脳外傷患者に対する不適切な可能性のある薬剤処方の実態とその影響の解明 (百崎 良 帝京大学医学部附属溝口病院 リハビリテーション科)</li> <li>○ 在宅生活を送る遷延性意識障害者・児の意思表出手段についての探索的研究：医療的ケアおよび福祉的（介護）ケアの継続性との関連 (大西 久男 大阪府立大学 大学院総合リハビリテーション学研究所)</li> <li>○ 胸部外傷後の急性呼吸不全患者に対する人工呼吸管理Neurally adjusted ventilatory assistが患者－人工呼吸器の同調性に及ぼす影響 (藤村 直幸 聖マリア病院 麻酔科)</li> <li>○ 交通外傷による脊椎・脊髄外傷後脊柱変形に対して三次元動作解析と筋電図計測を同期させた新たな歩行動作解析の開発 (三浦 紘世 筑波大学附属病院 リハビリテーション部)</li> <li>○ 交通外傷における部位と外傷種別を用いた簡便な外傷評価指標の開発と評価 (中村 謙介 日立総合病院 救命救急センター)</li> <li>○ 頭部外傷を受傷した直後に心停止を来した患者の剖検例の解析 (木林 和彦 東京女子医科大学 医学部 法医学講座)</li> <li>○ 重症外傷患者における非透視下でのREBOA（大動脈内バルーン遮断）留置時の挿入長予測式特定と妥当性検証に関する研究 (中嶋 賢人 横浜市立大学附属市民総合医療センター 高度救命救急センター)</li> <li>○ 外傷性関節軟骨損傷に対する自家培養軟骨移植術の術後成績向上に向けた多施設共同前向き研究 (赤木 龍一郎 千葉大学大学院 医学研究院 整形外科学)</li> <li>○ 脊髄再生医療に向けた外傷性脊髄損傷者への標準的リハビリテーション確立のための研究 (坂井 宏旭独立行政法人 労働者健康安全機構 総合せき損センター 整形外科)</li> <li>○ 脳卒中後注意障害を呈した患者の視線分析 (那須 識徳 農協共済中伊豆リハビリテーションセンター 作業療法科)</li> <li>○ 骨脆弱性が高齢者骨盤骨折の治療過程に及ぼす影響の調査 (上杉 雅文茨城西南医療センター病院 整形外科)</li> <li>○ 施設の垣根を超えたシステムティックレビュー人材育成プロジェクト～外傷領域における質の高いエビデンス構築を日本から～ (山川 一馬 大阪急性期・総合医療センター 救急診療科)</li> </ul>	
<p>(6) (公財)交通遺児等育成基金の支援</p> <p style="text-align: right;">【1,756千円】</p>	<p>★ 交通遺児の生活基盤安定を目的とする(公財)交通遺児育成基金を支援し、被害者救済に役立てる。</p> <p>○ 令和元年度の交通遺児の加入遺児総数は554名</p> <p>○ 自治体等の相談窓口等を通じた基金制度の紹介等。</p>	<p>○ 拠出団体（国やJA共済連等）の拠出分担割合にもとづく</p>
<p>(7) (公財)交通遺児育英会の支援</p> <p style="text-align: right;">【10,000千円】</p>	<p>★ 交通遺児の教育機会均等を目的とする奨学金事業等の支援を目的とする(公財)交通遺児育英会を支援し、被害者救済に役立てる。</p> <p>○ 令和元年度の在学奨学生数は1,052名</p>	<p>○ 活動状況についてヒアリングを実施</p>
<p>(8) 重度脳損傷後の意識障がい者と家族に関する研究</p> <p style="text-align: right;">【188千円】</p>	<p>★ 交通事故等を原因とした重度脳損傷後の意識障がい者と、その家族の介護負担の軽減を図る研究に対して支援を行う。</p> <p>○ 重度脳損傷後の意識障がい者の家族の介護負担軽減を図る研究（国立大学法人 筑波大学日高 紀久江）</p>	<p>○ 活動状況についてヒアリングを実施</p>

4. 後遺障害認定対策

事業の内容 【実績額】	実施概要	備 考
(1) 適正な後遺障害認定に資する医療研究に対する支援  【9,000千円】	★ 交通事故被害者に対する適正な後遺障害認定に資する医療研究に対する研究費用の一部を助成する。  ○ 令和元年度の課題は、「高齢者の脊髄損傷に関する臨床研究」	○ J A 共済医療研究助成審査委員会を開催し、助成対象を選定 ○ 各研究の成果については、報告書の提出を求めるとともに、学会等にも積極的に発表するよう依頼している

5. 医療費支払適正化対策

事業の内容 【実績額】	実施概要	備 考
(1) 医療分野研修等の実施  【54,173千円】	★ 医療分野研修を実施し、医療費支払の適正化を図る。  ○ 医療研究研修部で、医療費査定業務に従事する者を対象とした医療費研修会（応用コース）、医療調査研修会（整形外科コース、脳神経外科コース、フォローコース）の研修会を実施。研修会受講者は合計86名	○ 研修会の運営状況について現地視察を実施